武蔵野東教育センター会報
Newsletter of Musashino Higashi Center for Education and Research

“Heart to Heart”

心から心へ　わかちあう　あたたかさ

第8巻 第3号 (No.28)
発行日 平成27年3月1日

目次:

いつも新たな気持ちで出発を	1
コラム：自閉症児教育と研究（３）	2
療育プログラムのようす	2･3
コラム:ほめて育てる	4
教育センターからのご案内	4

いつも新たな気持ちで出発を

武蔵野東教育センター所長　長内博雄

まもなく今年度が終了します。この年度切り替わりの雰囲気は子どもたちにも影響を与えます。とくに新入学とか上級校への入学は、本人にとって大きな環境変化です。教育センターでも、新入学の子どもが家でランドセルと帽子を身につけて入学を楽しみにしているというお母さんの話を聞いて、そんな意識があったのだなあと話題になったり、とても内気なタイプの子どもが中学校に入学することに誇りを持っている様子が、スタッフ間の楽しい話題の一つになったりしています。

この時期には、年度のまとめとして子どもたちに一年間の頑張りを褒め、新年度の新たな頑張りへの期待を伝えます。こうした年度の区切はとても大切なもので、是非ご家庭でもお子さんの気持ちを不安ではなく期待に向けていただきたいと思います。新年度を、すっきりと新生した気持ちで臨める新たな出発にしてあげましょう。

さて、保護者の皆さんはお子さんの成長を願って前へ前へと未来に気持ちを募らせ、毎日の子育てに励まれてきたことと思います。その頑張りが今日のお子さんの成長を導いてきたわけですが、一方でお子さんの現在の状況について、ご自身の関わり方を含め何か心の内に不足感のようなあせりをもたれている方も多いのではないでしょうか。周囲のお子さんとつい比べてあせりを感じてしまうというのは一般的な感覚かもしれません。しかし現在のお子さんの状態を成長のプロセスとして「十分に立派なもの」と開き直って思えるならば、不必要な心の波風が立つこともありません。不達成感のストレスを抱えることは避けたいものです。

時には、子どもの成長を振り返る意味で、以前の記録を広げてみることもよいことなのでお勧めします。たとえば教育センターの「うわばきの着脱ができる」「おやつの袋を自分であけることができる」などの幼児期の重点目標を数年後に見てみると、こんなことができなかったんだねと新鮮な気持ちで思い返すことができたり、改めてお子さんの成育過程を大きな視野で認識することができます。

子を持つ親の子育てにおける力の源は、子どもへの情愛そのものでありましょう。誰よりもわが子が可愛いという「絶対」の感情があるからこそ、多くの苦労も乗り越えられます。湧き出るその真情は他人との比較で生じるものではなく、さらにお子さんの存在そのものこそ天地を貫く「絶対」のものです。この侵されることのない子どもの養育には、本来神聖さが伴っているのです。できるならば世間的思いにとらわれ過ぎることなく、常に新たな気持ちで子育てに励んでいくことを心がけたいものです。教育センターもまた親御さんの心に寄り添い、子どもたちが各自の個性をこの社会の中でよりよく発揮できるよう、十全な支援に努めていきたいと思います。

コラム　自閉症教育と研究（3）

赤ちゃん研究からの示唆

東條 吉邦（茨城大学教育学部教授、元・国立特殊教育総合研究所分室長）

マイケル・トマセロ著『ヒトはなぜ協力するのか』(橋彌和秀訳、勁草書房、2013年)や前回のコラムで取り上げた千住淳著『社会脳とは何か』(新潮新書、2013年)などに、赤ちゃんを対象とした研究の成果が書かれておりますが、今回は、社会性の発達や自閉症児の教育に対する「赤ちゃん研究」からの示唆についてご紹介します。

社会性の発達の指標ともいわれている「心の理論」の課題が出来るようになるのは4歳ころと一般的には知られておりますが、最近の赤ちゃん研究から、他者への協力行動に関する心の理解は、1歳前後から可能という結果が報告されております。1歳の誕生日頃に、赤ちゃんは指さしをはじめますが、そのころから援助行動としての指さしも見られるようになります。例えば、赤ちゃんの眼前で、棚にしまわれてしまったホチキスの場所を、紙の束を持って部屋に戻ってきた大人(ホチキスを探している人)に、自発的に棚を指さして在処を知らせるといった行動です。こうした援助行動は親からの促しや報酬によって増加するものではなく、生まれつきの行動であり、「報酬を与えることによって逆に弱まる」とマイケル・トマセロは指摘しています。

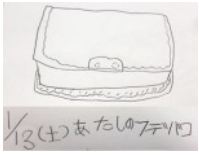
また、1歳半ころの幼児は、大人からの働きかけ(呼びかけなどの明示的な手掛かり)が最初にある場合には、モノ中心の解釈をし、最初に働きかけがない場合には、その大人の好みと解釈しやすいことも報告されています。具体的には、「①大人の呼びかけや視線に反応して大人に注意を向ける」「②モノに向けられた大人の指さしや視線からモノを見つける」に続く「③大人の発した情報(言葉や感情)」は、モノの名称や、そのモノが安全か危険かといった一般的な知識として学び、①の段階がない場合には、その大人の声色や表情を、モノに対するその大人の好み(好きか嫌いか)として学ぶ傾向があることが最近の研究から分かってきました。そして、褒め言葉などの報酬がなくても自発的に学びが成立することも明らかにされ、このような学び方は、「自然教授法」とも呼ばれております(千住淳、前掲書)。

これらのことから、言葉や社会性の発達を促す教育の在り方についての新たな検討も始まっております。

このコラムは４回シリーズでお届けします。

療育プログラムのようす

アート教室　身の回りにある文房具など、実物を見てのスケッチに挑戦しています。毎回継続して取り組んできた模写トレーニングの成果もあり、形をよく見て正確に描く力が身に付いたことが実感できます。「これも描いてみていい？」「こんな角度から描きたい！」「こんな細かいところも描いたよ」と意欲的にスケッチしている姿は、今後の成長をますます期待させられる瞬間でした。(北川)



筆箱のスケッチ

ダンス教室　発表会が無事に終わりました。大勢のお客様の応援を受けて、子どもたちは力いっぱい練習の成果を発揮することができました。発表の後、客席の友だちから激励の言葉をもらうと、ほっとした笑顔で「ありがとう」と返す子ども同士のやりとりが見られ、その達成感に満ちた表情がとても印象的でした。最後まで頑張った子どもたちに盛大な拍手を贈りたいと思います。(新堂)

ポンポンダンスでみんなノリノリ！

体育教室　インラインスケートの活動では、スケートを着ける前に片足立ちやケンケンなどの準備動作を十分に取り入れたことで、左右の足にしっかり重心を乗せた滑走ができる生徒が多く見られました。初めは、立つことにも苦労していた生徒も、今では、スタッフや友だちと一緒に滑走を楽しめるまでに成長しました。ヒールブレーキやスラロームにも挑戦中です。(鈴木)

只今、滑走中

もうすぐ新聞が完成です

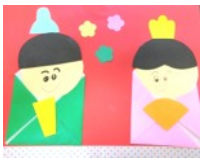
コンピュータ教室　一年間で習得したタイピングの技術や色々な機能を使い，新聞づくりをしています。自分で新聞のテーマを設定した上で、関連する画像やペイントで描いたイラストを挿入したり、フォントの色・大きさを変更したりと、オリジナルな新聞ができてきました。「たくさんの人に読んでもらえるよう楽しい新聞にしなきゃ！」と読み手を意識し作っている子どももいました。(北川)

話し役・聞き役に分かれて会話

SST教室　二人組になって会話をする活動を、「話し役」と「聞き役」に分かれて行いました。特に「聞き役」になったときに苦労する子が多かったため、重点的に練習を行っています。①自分のことは話さずに聞き役に徹すること、②相手が話しやすいように質問すること、③相手の話に相槌やうなづきを返すことの3点を課題として、練習を続けています。(大澤)

スクールプログラム

幼児 少し前に「おには、そと！」「ふくは、うち！」と豆まきを楽しんだと思ったら、もう、本格的な春はすぐそこまで来ていますね。幼児グループはひなまつり製作を楽しんでいます。折り紙をちぎって桃の花の飾りにしたり、いつもより大きな折り紙で着物を折ったり、クレヨンでおひなさまを描いたりとそれぞれが季節を感じながら作品作りを楽しみました。4月からは進級、入園、入学と新しい一歩が始まりますが、今年一年のセンターでの経験を自信にかえて、がんばっていきましょう。応援しています。（本田）


ふたり並んでかわいいね

1年生 国語の「ものの名前」の単元の学習をしました。「やさいのなかまは、なすとにんじんと‥」など、それぞれのものはどこのカテゴリーに入っているのかを、みんなでカードを使って弁別の学習をしました。また、提示されたカード以外の名詞を順番に答えるゲームにも挑戦しました。みんな張り切って答えていて、とても楽しい授業になりました。（宮下）

言葉のカード

2年生 算数では、大きな数の学習をしています。1枚の紙、10枚、100枚、1000枚の紙束を子ども達に見せたところ、「1枚だとペラペラなのに、1000枚だとこんなに沢山になるんだね」「高さも全然違うよ」など、楽しみながら数の大きさを感じ取っていました。位毎の数え方、数直線、大小比較など様々な視点から数を捉えて学習に取り組むことができています。（猪野）

大きな数　数えてみよう

3年生 算数では「重さ」の授業を行いました。g(グラム)やkg(キログラム)などの単位を確認した後は、見た目が違う2つの粘土の塊を比べて、どちらが重いかを質問しました。「こっちの方が重い」「同じかもしれない」など意見は様々。計測すると…『どちらも同じ1kg！』。驚いた表情を浮かべた子、予想が当たった子、楽しく重さの学習ができました。（諸橋）

重さの学習

絵地図を見ながら道案内

4年生 国語の学習では、絵地図や路線図を見て目的地までの道案内をする学習を行っています。いくつ目の信号で左右どちらに曲がるのか、ポイントとなる建物や公園など、目印となるものを話の中に取り入れるようにしています。算数は「がい数」と「四則混合計算」に挑戦しています。もうすぐ5年生。気持ちも新たに、がんばっていきましょう！（藤本）

人と人のつながり方を考える

5年生 『ゆるやかにつながるインターネット』という説明文の学習をしました。人と人のつながり方には、家族などの「強いつながり」、名前だけ知っている人などの「ゆるやかなつながり」の2種類があるという内容を受けて、自分にとっての「強い／ゆるやかなつながり」に当たる人を考えました。具体的に考えてみることで説明文の趣旨に対する理解を深められたと思います。（大澤）

以下と未満の違いは？

6年生 国語では、「言葉は動く」「数え方でみがく日本語」など、言葉を見直す学習をしました。数え方の学習では、「うさぎは一羽？」「たんすは一棹なんだ！」と興味を持って取り組めていました。算数では、「以下」と「未満」の違いを復習してから、柱状グラフの学習に入ります。小学校で学習してきたことを丁寧に思い出して、4月からの新しい生活への心の準備をしていきましょう。（臼井）

中学生 体育では、長縄跳びにチャレンジしています。1人なら50回以上跳べる生徒でも、2人、3人、4人一緒に跳ぶのは大変難しい様子でしたが、練習を重ねるうちに6人全員で15回以上跳ぶことができました。次なる目標は、回っている縄に1人ずつ跳びこんでいき、6人揃って10回以上跳ぶことです。皆で協力して目標達成を目指しています。（吉田）

長縄跳びに挑戦！

言語プログラム 「青い四角」「赤い丸」と聞いて、色・形カードを合わせる練習に取り組んでいます。透明な部分に色が重なる様子が面白いようで真剣にカードを合わせています。聞き取る力がついてくると、「これは何ですか？」の問いに、「青い車」「赤い傘」などと2語連鎖で答えることもできるようになってきています。（岸）

色と形を合わせよう

ほめて育てる

副所長　計野　浩一郎

成長期の子どもには、その年代に応じて優先的に身につけるべきものがあります。それは、人として当然必要な基本的な生活習慣です。自分の身の回りのことはなるべく自分ですること。挨拶やお礼、お詫びの言葉をきちんと使えること。順番やルールを守ること。人の話を最後まできちんと聞けること。その他にも子どもたちが成長とともに後天的に学んでいかなければいけないことは数多くあります。子どもたちにとってはきっと多くの努力が必要なことではないかと思います。これらの生きていく上で必要な事柄を学んでいってもらうために「こうすればいいんだ」「次もやってみよう」と前向きに肯定的に子どもたちが思い感じられるように、大人は自分の考え方を持ってほめる言葉を使う必要があります。その考え方のヒントになることをいくつかを挙げてみます。

①タイミングを逃さず、具体的な内容でほめる

時間が経ってからほめられても忘れてしまう。ほめられるとしたら、やはり、その行為をした後すぐに、ほめことばをかけられると嬉しいもの。伸びた瞬間を見逃さずに、「さっきより〇〇することがずっとよくなってきたね。」とその場、その時を逃さずにほめることが大切です。また、ただ「よかったね」「上手だね」「助かったよ」「ありがとう」などのほめ言葉をいわれても、どうしてほめられたのかわからない。例えば、「お皿きれいに洗ってくれて、ありがとう」「大きな声で本を読むことができて、よかったね」など、本人と向き合って、タイミングを逃さず、具体的にほめることが大切です。

②結果だけでなくプロセスもほめる

「1番すごいね」「100点えらいね」というほめ言葉は、1番でなくてはダメ、100点でなくてはダメという思いにとらわれることにつながります。結果が思わしくなくても、その結果を生みだした全てのプロセスが、ダメということはまずありません。プロセスの中で一つでもよい点を見出して、そこをほめ、次の行動へと導いていくことが大事になってきます。最終的な上手、下手にかかわらず、子どもたちが誇れること。結果よりも努力に注目することで、外的な喜びを求めるのではなく、活動に取り組むこと自体がもつ喜びを見つけるための基礎を築くことができるような考え方を持ってほめることが大切です。

③良いところをみる力

「子どもの良いところ10こ言ってください」と問われると、大人は悪いところは思い出すのだけれどという方が多い。悪いことを探すことに慣れてしまっていて、良いところを探すことは、ほとんどの方があまり得意ではありません。親が無表情だったり、なかなか笑ってくれなかったりすると、子どもだって笑えなくなります。家庭に笑顔を増やしてほしい。親と子どもとの間に良い関係を作ってほしい。そのためには、親が子どもたちの良いところを見つけ、ほめることはとても有効です。

親は、子どもにとって最大の応援団です。子どもが適度な自尊心を持つために、上記した点を考慮しながら励ましていってほしいと思います。

武蔵野東教育センター
〒180-0012　武蔵野市緑町２-１-１０
電話　0422-53-8585 FAX　0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください
http://www.musashino-higashi.org

平成27年度療育プログラムについて

若干まだ空きのあるプログラムがございますので、直接お問い合わせください。

サマープログラム日程は以下の通りです。4月上旬から募集を始めますので是非ご応募ください。

第１回　８月　２日（日）～　６日（木）
第２回　８月１０日（月）～１４日（金）

セミナーのご案内

平成27年度のセミナーの日程が決まりましたので、ご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせいたします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

①平成２７年　５月２９日（金）10時～12時
②平成２７年１０月　８日（木）10時～12時
③平成２８年　２月２６日（金）10時～12時